2027年3月期 第2四半期
決算概要

シスメックス株式会社
2026年11月10日

Together for a better
healthcare journey

Disclaimer

・本資料のうち、売上予想等に記載されている各数値は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づき算出しており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化により、実際の業績等が予想数値と大きく異なる可能性があります。

・本資料に記載されている製品等の情報は、薬事認可取得の有無に関わらず宣伝広告および医学的アドバイスを目的としているものではありません。

・当社グループは、2017年3月期より国際会計基準（IFRS）を適用し、IFRSに準拠して開示しております。

Index

1. エグゼクティブサマリー
2. 2027年3月期 第2四半期決算概要
3. 中期経営計画において重点的に取り組むテーマ
4. 2027年3月期 業績予想

（補足資料）

1. エグゼクティブサマリー

エグゼクティブサマリー（2027年3月期 第2四半期実績：対前年）

米州での力強い伸長に加え、円安効果も寄与し、増収・増益を達成

売上高
2,728億円 前年同期比 **+17.3%**

営業利益
334億円 前年同期比 **+1.4%**

中間利益*
179億円 前年同期比 **△5.7%**

*親会社の所有者に帰属する中間利益

為替の影響 ()内は為替影響を除いた前年同期比

売上高 +209.7 億円 (+8.3%)、販管費 +52.3 億円 (+3.0%)、営業利益 +64.8 億円 (△18.3%)

増収の主要因

- ✓ 米州を中心にヘマトロジー分野が大きく伸長
- ✓ EMEA・APの堅調な成長に加え、円安効果が寄与

地域別

米州 +16.5% / EMEA +8.5% / 中国 △22.4% (期初予想通り)

AP +5.7% / 日本 +41.8%

＊米州・EMEA・中国：現地通貨ベース/AP：為替影響を除いた場合/日本：円ベース

増益の主要因

- ✓ 連結子会社の減損損失（57億円）などによる影響があるも、増収に伴う粗利増加および円安の効果などにより、増益

キャッシュ創出 ()内は対前年同期増減額

- ✓ 営業CF：670億円（＋290億円）
- ✓ フリーCF：340億円（＋226億円）

エグゼクティブサマリー（2027年3月期 通期業績予想修正）

上期業績の上振れに加え、事業ポートフォリオ見直しに伴う一時的な収益・費用を見込みながらも、コア領域の堅調な成長を踏まえ、通期業績予想を上方修正

■ **通期（修正後）**

売上高		営業利益		当期利益*	
5,500億円	対前回予想 **+50億円** 前年同期比 **+10.0%**	**685**億円	対前回予想 **+85億円** 前年同期比 **+32.2%**	**400**億円	対前回予想 **+30億円** 前年同期比 **+12.8%**

*親会社の所有者に帰属する当期利益

✓ 下期は、期初予想の営業利益水準を維持
- 上期に発生しなかった事業ポートフォリオ見直しに伴う一時的な費用（期ずれ）および収益発生を見込む
- 中国の下期売上高は、検査価格の見直し影響が依然として不透明であるものの、期初予想の範囲内と想定（対前年約△10%、現地通貨ベース）

エグゼクティブサマリー（事業ポートフォリオの見直し）

ダイアグノスティクス事業の「強さ」と「稼ぐ力」を再強化し
成長性・収益性・資本効率を同時に高める

コア領域に集中

競争優位と成長余地を基準に
投資・人材を重点配分

- ヘマトロジー・血液凝固・尿・免疫分野を再強化
- FCM・Neurology・生化学分野を育成分野として強化

戦略・投資範囲を見直し

収益性・効率性・競争優位性
ベストオーナーなどで評価

- ライフサイエンスは個別事業として収益化を追求せず、診断価値を支える資産として活用
- 事業関連子会社も保有を前提とせず見直し
- メディカルロボット事業については、今後の海外展開・収益化に向けて関係3社間での協議を開始

R&Dテーマの見直し

継続を前提とせず
具体策を着実に実行

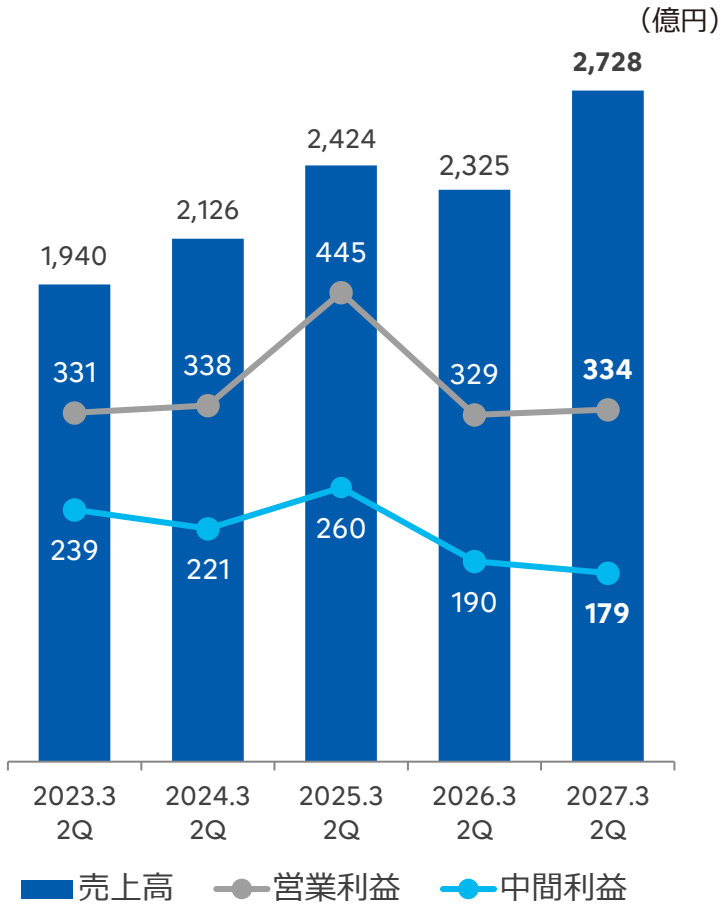
- R&D体制および研究開発テーマの見直し
- コア領域への投資配分を段階的に引き上げ

今後も事業・分野およびR&Dテーマへの資源配分を継続的に見直し、
収益力とキャッシュ創出力の改善を企業価値向上につなげていく

2. 2027年3月期 第2四半期決算概要

決算総括（対前年）

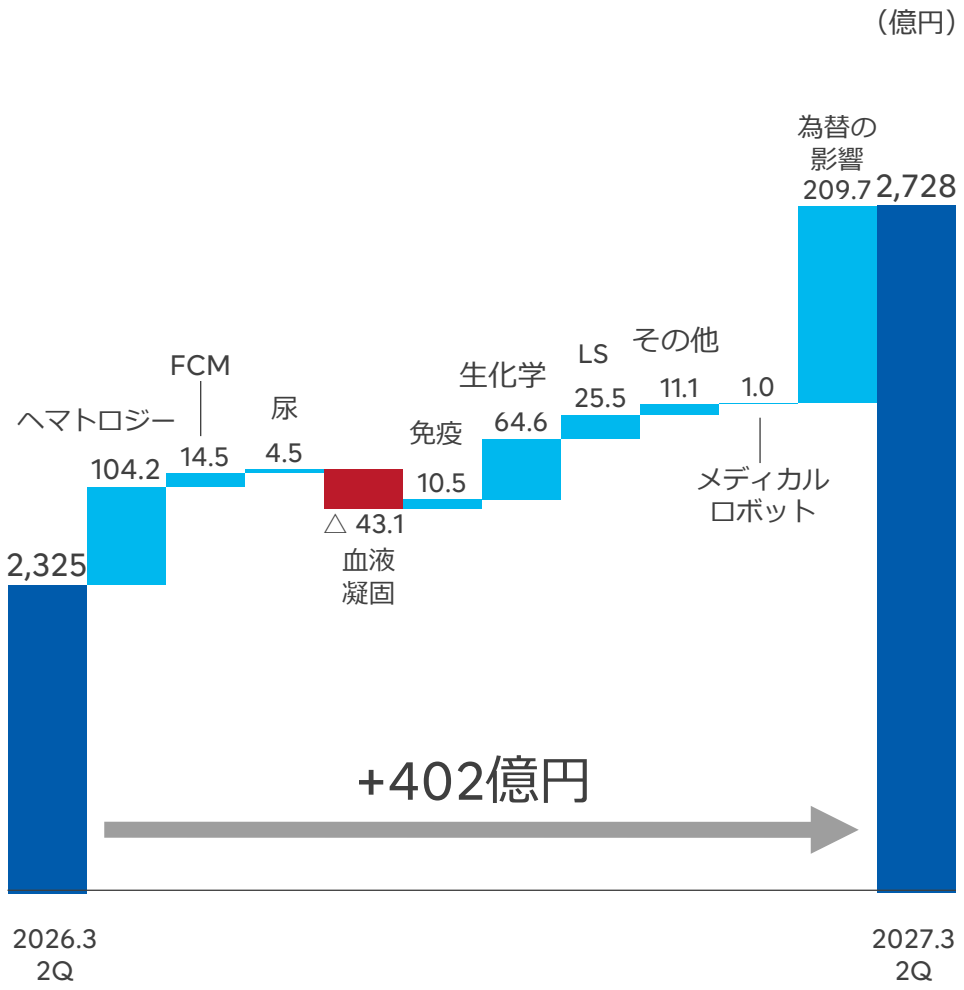
（億円）	2027年3月期2Q 実績	2027年3月期2Q 構成比	前年同期 実績	前年同期 構成比	前年同期比
売上高	**2,728.2**	**100%**	2,325.2	100%	**117.3%**
売上原価	**1,323.8**	**48.5%**	1,099.7	47.3%	**120.4%**
販売費及び一般管理費	**854.7**	**31.3%**	778.7	33.5%	**109.8%**
研究開発費	**142.2**	**5.2%**	132.0	5.7%	**107.8%**
その他の営業損益	**△73.0**	**△2.7%**	14.7	0.6%	**-**
営業利益	**334.2**	**12.3%**	329.5	14.2%	**101.4%**
親会社の所有者に帰属する中間利益	**179.3**	**6.6%**	190.1	8.2%	**94.3%**



	2027年3月期2Q	前年同期
1USD	**159.3円**	146.0円
1EUR	**184.3円**	168.1円
1CNY	**23.5円**	20.3円

売上高の増減要因（事業別・分野別）

事業別・分野別売上高



ヘマトロジー分野を中心とした成長と円安影響により大幅増収

（億円）	2027年3月期2Q		前年同期比	
	実績	構成比	円ベース	中国・為替影響を除く
売上高	2,728.2	100.0%	117.3%	115.3%
ヘマトロジー	1,641.7	60.2%	116.8%	109.5%
FCM	33.5	1.2%	208.6%	148.1%
尿	231.6	8.5%	112.0%	105.5%
血液凝固	336.4	12.3%	95.8%	122.8%
免疫	121.0	4.4%	117.7%	138.4%
生化学	77.9	2.9%	605.4%	770.4%
ライフサイエンス	136.6	5.0%	134.3%	118.4%
その他	132.3	4.9%	118.1%	109.9%
ダイアグノスティクス事業	2,711.3	99.4%	117.4%	115.4%
メディカルロボット事業	16.8	0.6%	107.0%	107.0%

売上高の増減要因（地域別・品目別）

米州・EMEA・APにおいて機器を中心に伸長し、増収

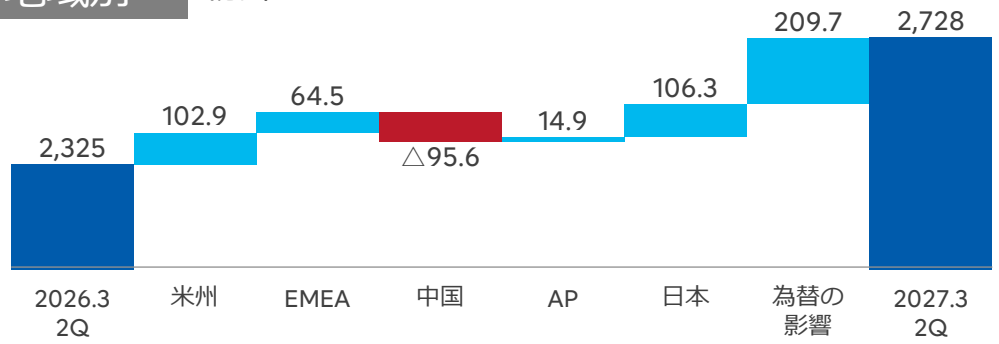
（億円）	2027年3月期2Q 実績	構成比	前年同期比 円ベース	現地通貨ベース
売上高	2,728.2	100.0%	117.3%	108.3%※
米州	821.7	30.1%	127.0%	116.5%
EMEA	868.0	31.9%	119.0%	108.5%
中国	388.6	14.2%	89.8%	77.6%
AP	289.1	10.6%	110.6%	105.7%※
日本	360.6	13.2%	141.8%	-
機器	569.6	20.9%	129.8%	120.1%※
試薬	1,639.8	60.1%	111.1%	102.2%※
サービス	371.7	13.6%	115.3%	106.6%※
その他	146.9	5.4%	167.0%	158.5%※

※為替の影響を除いた円貨ベースの前年同期比伸長率

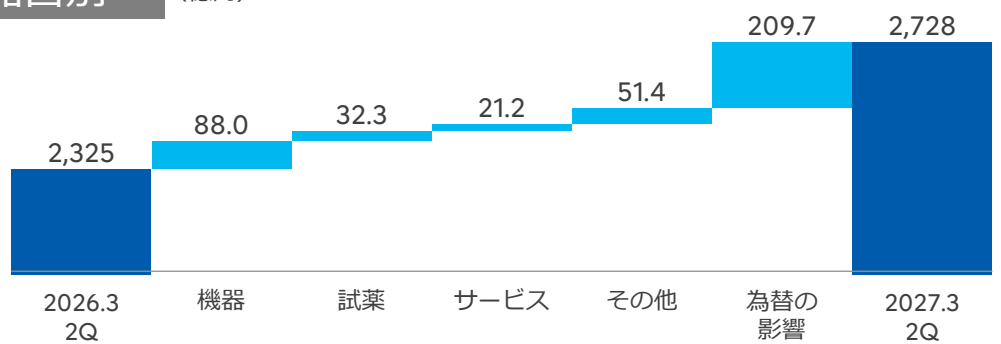
地域別の主な増減要因 *現地通貨ベース

米州	• 北米およびブラジルを中心に好調に推移。ヘマトロジー分野など主力分野が伸長し、**大幅増収**
EMEA	• 主要国、中東、東欧を中心に堅調に推移。ヘマトロジー・血液凝固分野など主力分野が伸長し、**増収**
中国	• 前年度2Qから顕在化している医療費抑制政策および代理店の在庫調整の影響により、**減収**も、期初想定内で推移
AP	• インドでの継続的な高成長に加え、東南アジア地域で試薬を中心に好調に推移し、**増収**
日本	• 機器・試薬ともに例年水準へ回復したことに加え、4月から承継した生化学分野等も寄与し、**増収**

地域別 （億円）



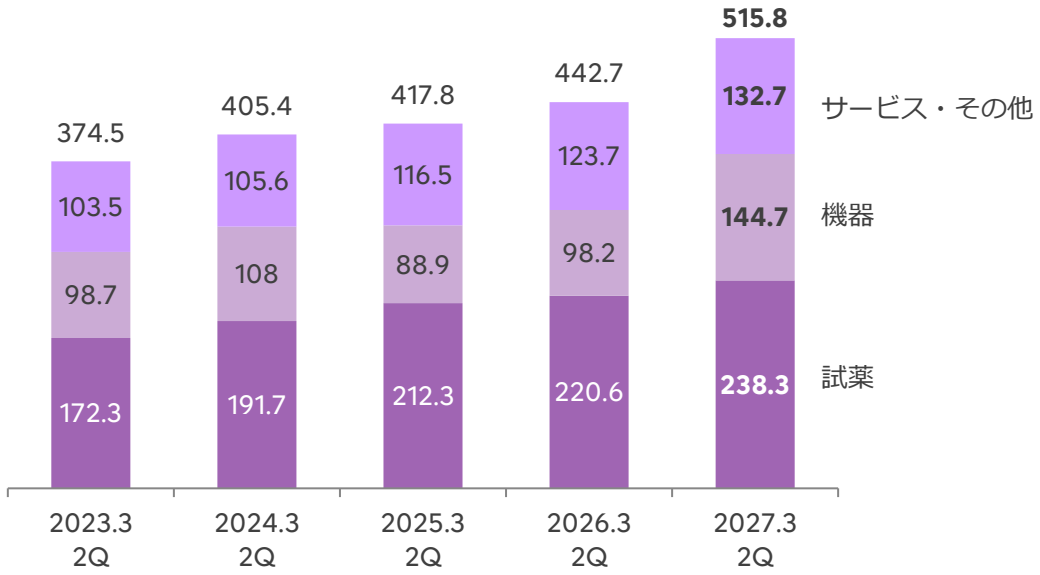
品目別 （億円）



米州（地域別）

（Million USD）	2027年3月期 2Q	前年同期	前年同期比 現地通貨ベース	前年同期比 円ベース
売上高	**515.8**	442.7	**116.5%**	127.0%
機器	**144.7**	98.2	**147.3%**	160.5%
試薬	**238.3**	220.6	**108.0%**	117.8%
サービス・その他	**132.7**	123.7	**107.3%**	116.9%

売上高推移（Million USD）



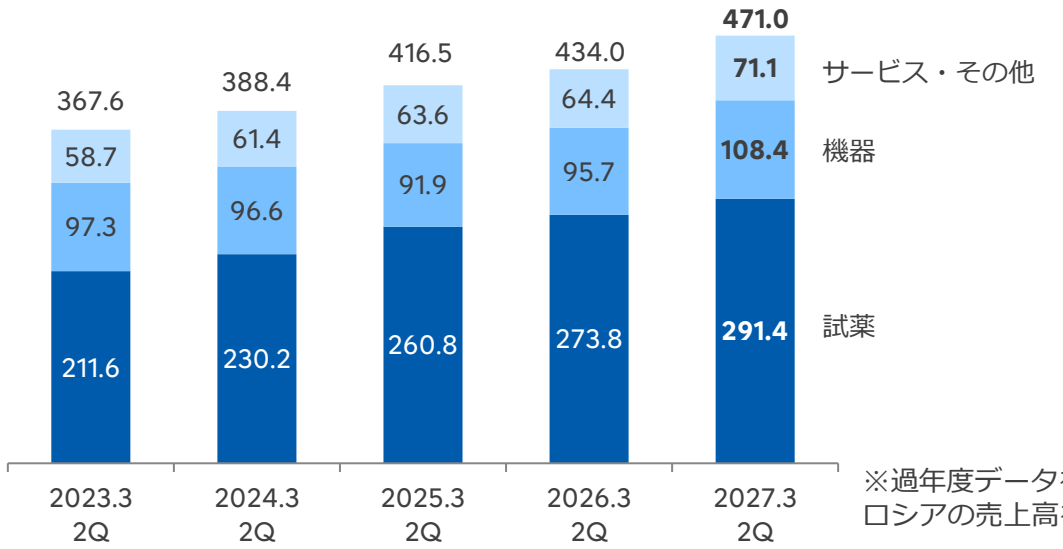
北米およびブラジルを中心に好調に推移。ヘマトロジー分野など主力分野が伸長し、**大幅増収**

- **機器**
  - ✓ヘマトロジー分野では、1Qに続き米国を中心にXN™シリーズの設置が進み、増収
  - ✓血液凝固分野では、大型案件の獲得もあり、順調に推移
- **試薬**
  - ✓ヘマトロジー・尿・血液凝固分野を中心に、機器設置台数の増加に伴い、全分野で増収
  - ✓アミロイドβ検査試薬も順調に推移 （売上高6.8 MUSD）

EMEA（地域別）

（Million EUR）	2027年3月期 2Q	前年同期	前年同期比 現地通貨ベース	前年同期比 円ベース
売上高	**471.0**	434.0	**108.5%**	119.0%
機器	**108.4**	95.7	**113.2%**	124.1%
試薬	**291.4**	273.8	**106.4%**	116.6%
サービス・その他	**71.1**	64.4	**110.4%**	121.1%

売上高推移（Million EUR）



※過年度データを含め、ロシアの売上高を除く

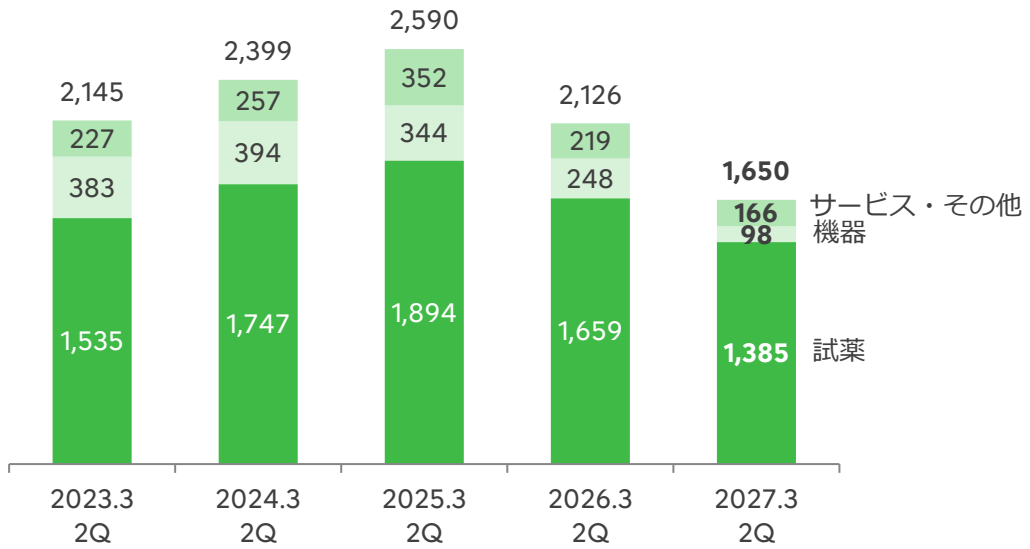
主要国、中東、東欧を中心に堅調に推移。ヘマトロジー・血液凝固分野など主力分野が伸長し、**増収**

- **機器**
  - ✓ ヘマトロジー分野のXR™シリーズがフランス、イタリアで大きく伸長した他、中東、東欧でも好調に推移し、増収
  - ✓ 血液凝固分野は、ドイツ・ベルギーなど各国で順調に伸長し、増収
- **試薬**
  - ✓ ヘマトロジー分野を中心に、主要分野の機器設置台数の増加に伴い、増収
  - ✓ 血液凝固分野は、前年度大型案件を獲得したドイツや、トルコなどで増収

中国（地域別）

（Million CNY）	2027年3月期 2Q	前年同期	前年同期比 現地通貨ベース	前年同期比 円ベース
売上高	**1,650.1**	2,126.6	**77.6%**	89.8%
機器	**98.5**	248.5	**39.7%**	45.8%
試薬	**1,385.3**	1,659.0	**83.5%**	96.7%
サービス・その他	**166.1**	219.0	**75.8%**	87.6%

売上高推移（Million CNY）



前年度2Qから顕在化している医療費抑制政策および代理店の在庫調整の影響により**減収**も、期初想定内で推移

● 機器

✓ 医療費抑制政策の拡大懸念を背景に、代理店の在庫調整が長期化し減収も、ヘマトロジー・血液凝固分野の設置台数は増加傾向

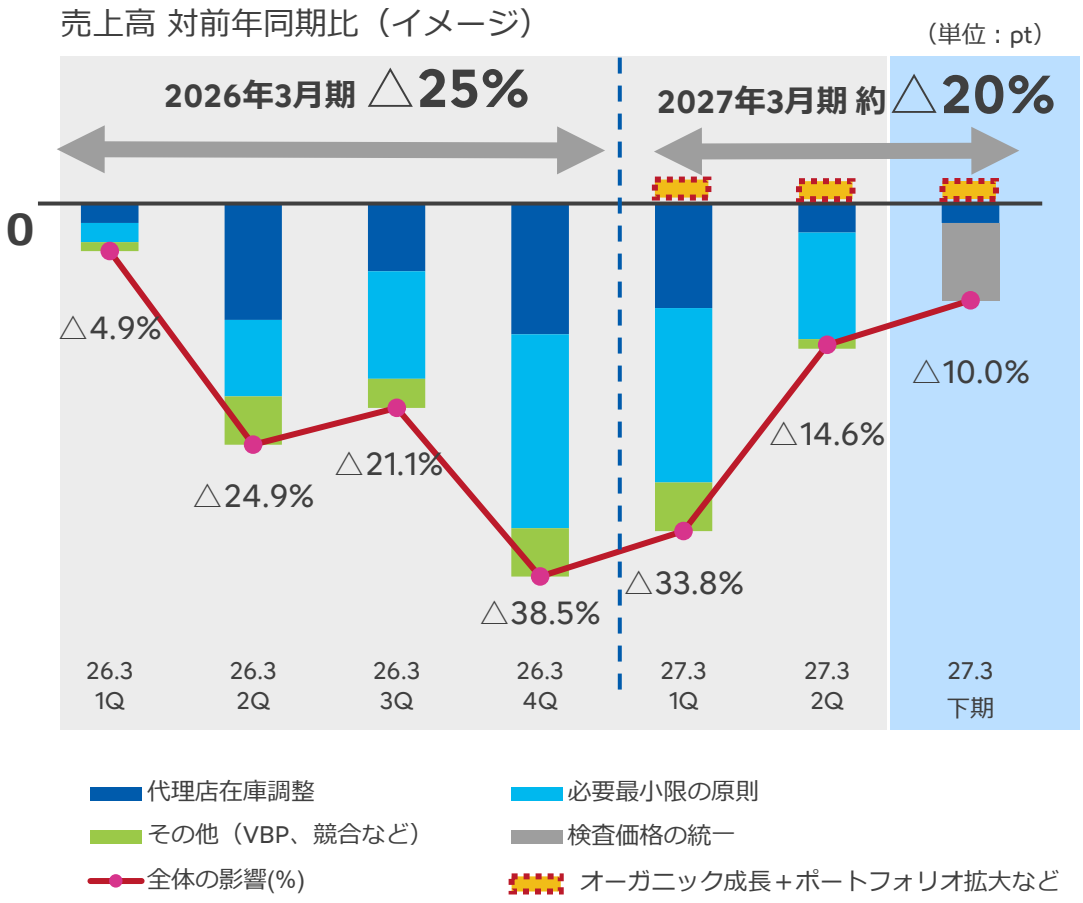
● 試薬

✓ 必要最小限の原則の影響により、主に血液凝固分野で検査数が減少し、減収

✓ ヘマトロジー分野を中心に代理店の在庫調整が継続しており、減収

中国における現状と今後の見通し

上期は想定内で推移、下期は検査価格の見直し影響を期初に織り込んでおり、予測を維持



2027年3月期 上期実績　：想定内で推移

- 必要最小限の原則、代理店の在庫調整影響が継続

2027年3月期 下期の見通し：期初予測を維持

- 必要最小限の原則の影響は一巡
- 代理店の在庫調整（機器）は長期化のリスクあり
- **検査価格の見直し**
  - 4Qから影響を見込むも、**期初想定の範囲内と予測**

参考）検査価格の見直しの現状

赤：減額　青：増額

		北京		浙江省		安徽省		遼寧省		江西省		青海省	
(CNY/test)		現行	変更案	現行	変更案	現行	変更案	現行	変更案	現行	変更案	現行	変更案
ヘマトロジー（5分類）		20.0	20.0	15.0	15.0	15.0	**16.0**	25.3	**23.0**	15.0	15.0	25.0	**23.0**
血液凝固分野	FDP	40.0	40.0	12.0	**22.5**	30.0	30.0	66.0	**40.0**	40.0	40.0	40.0	40.0
	DD	80.0	**65.0**	50.0	**47.5**	45.0	45.0	66.0	66.0	40.0	40.0	60.0	60.0
	TT	15.0	**14.0**	12.0	12.0	12.0	12.0	14.3	14.3	10.0	10.0	16.0	**15.0**
	FIB	30.0	**22.0**	12.0	12.0	13.0	13.0	22.0	22.0	20.0	**15.0**	15.0	15.0
	APTT	20.0	**18.0**	12.0	12.0	18.0	18.0	20.4	20.0	12.0	12.0	15.0	15.0
	PT	25.0	**16.0**	12.0	12.0	12.0	**11.0**	12.1	12.1	10.0	10.0	10.0	**12.0**

※各省の医療保障局より開示されている資料を基に作成

現状認識

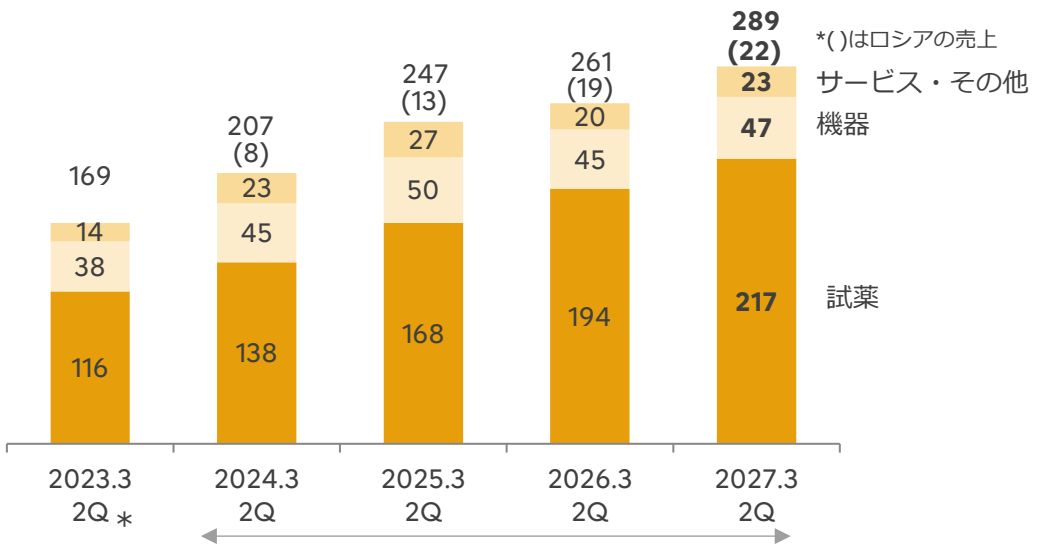
- 試行6省全てで見直し後の価格案を発表（公募段階）
- それ以外の省では、価格の見直しが進められている （2026年内に公表されると推定）
- 下期影響は期初想定の範囲内に収まる見通しであるが、状況を継続的に注視

AP（地域別）

（億円）	2027年3月期 2Q	前年同期	前年同期比 円ベース
売上高	**289.1**	261.5	**110.6% (105.7%)**
ダイアグノスティクス事業	**288.3**	260.7	**110.6%**
機器	**47.6**	45.8	**103.9%**
試薬	**217.2**	194.0	**112.0%**
サービス・その他	**23.5**	20.8	**112.7%**
メディカルロボット事業	**0.7**	0.8	**93.9%**

*( )は為替の影響を除いた場合

売上高推移（億円）



＊ロシア売上高を含まない　　ロシア売上高を含む

インドでの継続的な高成長に加え、東南アジアで試薬を中心に好調に推移し、**増収**

ダイアグノスティクス事業

● 機器

✓インドでヘマトロジー分野の小型モデルが好調に推移した他、フィリピン、タイなど東南アジアで血液凝固分野が伸長し、増収

● 試薬

✓インドネシアにおいて、ヘマトロジー・尿分野を中心に大幅伸長し、増収

✓タイ、シンガポールなど東南アジアを中心に好調に推移し、主力分野で増収

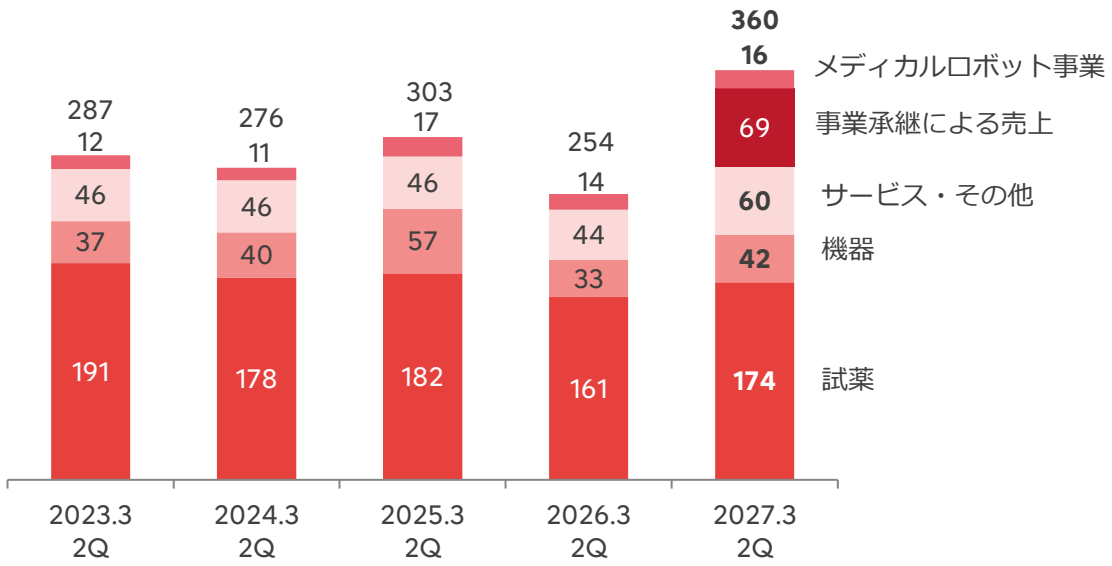
メディカルロボット事業

✓10月にベトナムで新規設置2台（累計台数：6台）

日本（地域別）

（億円）	2027年3月期 2Q	前年同期	前年同期比 円ベース
売上高	**360.6**	254.3	**141.8%**
ダイアグノスティクス事業	**344.6**	239.4	**143.9%**
機器	**64.7**	33.0	**196.1%**
試薬	**179.6**	161.8	**111.0%**
サービス・その他	**100.2**	44.5	**224.9%**
メディカルロボット事業	**16.0**	14.9	**107.7%**

売上高推移　（億円）



機器・試薬ともに例年水準へ回復したことに加え、4月から事業承継した生化学分野なども寄与し、**増収**

ダイアグノスティクス事業

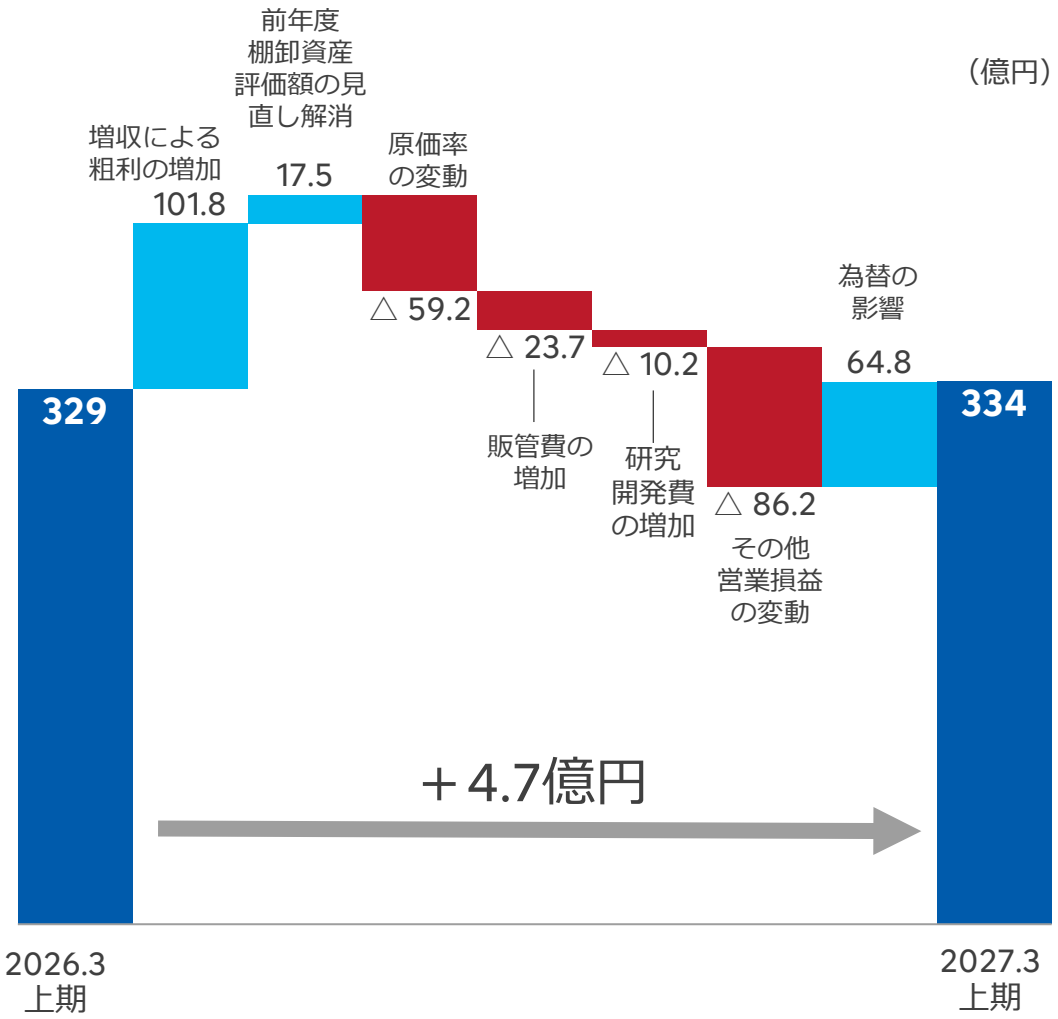
- **機器**
  - ✓ 各分野共に順調に推移
- **試薬**
  - ✓ 尿・血液凝固・免疫分野の機器設置台数増加に伴い、増収
  - ✓ 前年のシステム切り替えに伴う影響は解消
- **事業承継**
  - ✓ 4月から事業を開始した生化学分野などが好調に推移

メディカルロボット事業

- 上期導入台数：10台（累計台数：116台）

営業利益の増減要因（対前年）

営業利益

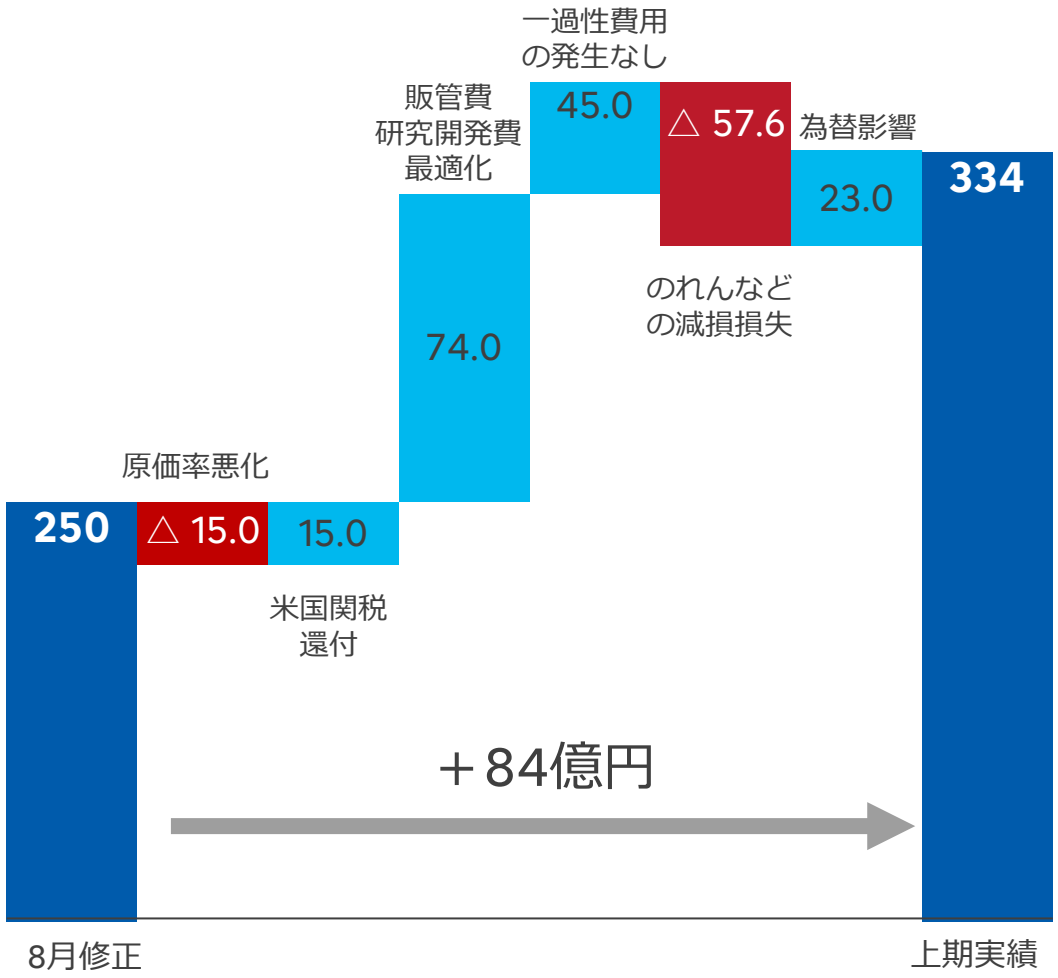


※下記数値・コメントは為替の影響を除く

- 増収による粗利の増加：＋101.8億円
- 前年度棚卸資産評価額の見直しの解消：＋17.5億円
- 原価率の変動：△59.2億円（2.4pt悪化）
  - ✓ 悪化要因：プロダクトミックス1.6 pt、ロジコストの悪化0.4pt
    サービスコストの悪化 0.2pt
- 販売管理費の増加：△23.7億円
  - ✓ 労務費：直販地域拡大に伴う人員増や単価増：△23億円
- 研究開発費の増加：△10.2億円
  - ✓ 製品開発への投資拡大
- その他営業損益の変動：△86.2億円
  - ✓ 生化学事業子会社の減損損失の計上
  - ✓ 仕入製品の契約対応に伴い発生し得る損失の計上
- 為替の影響：+64.8億円

上期営業利益予想と実績の差異要因

営業利益



※下記数値・コメントは為替の影響を除く

- 販管費・研究開発費最適化：+74.0億円
  - ✓ コア領域へフォーカスする指針のもと、費用の見直しを徹底
- ポートフォリオ見直しによる一時費用未発生：+45.0億円
  - ✓ 施策実行時期の変更（下期へ期ずれ）
- 生化学事業子会社の減損損失の計上：△57.6億円
  - ✓ 日本国内事業は計画どおりに推移
  - ✓ 海外事業は当初計画に対し立ち上げ時期を見直し
    - – 製品販売に必要な許認可取得時期の変更を踏まえ、事業計画に反映

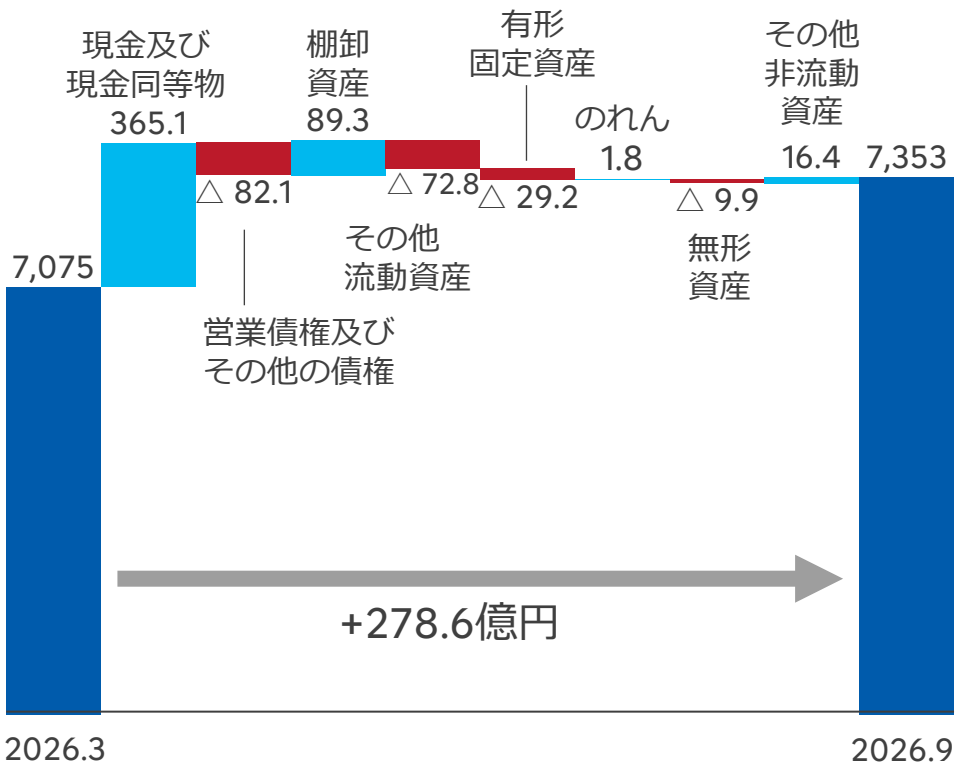
連結財政状態計算書の増減要因

資産

流動資産　+299.5

非流動資産　△20.9

（億円）

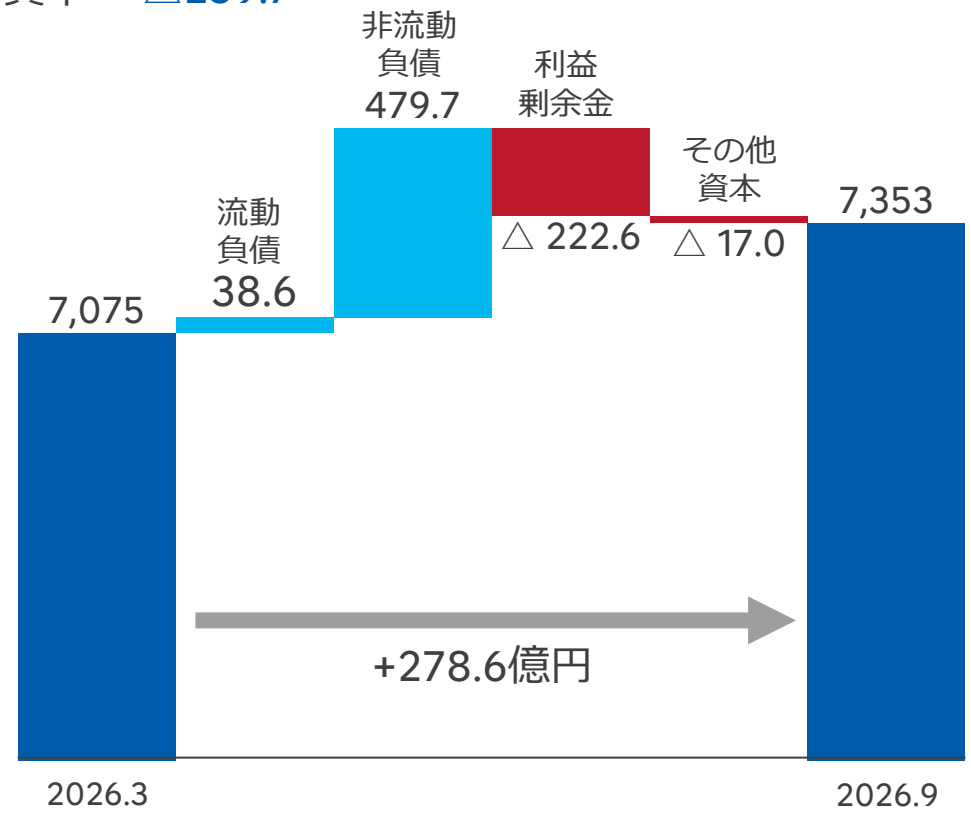


負債・資本

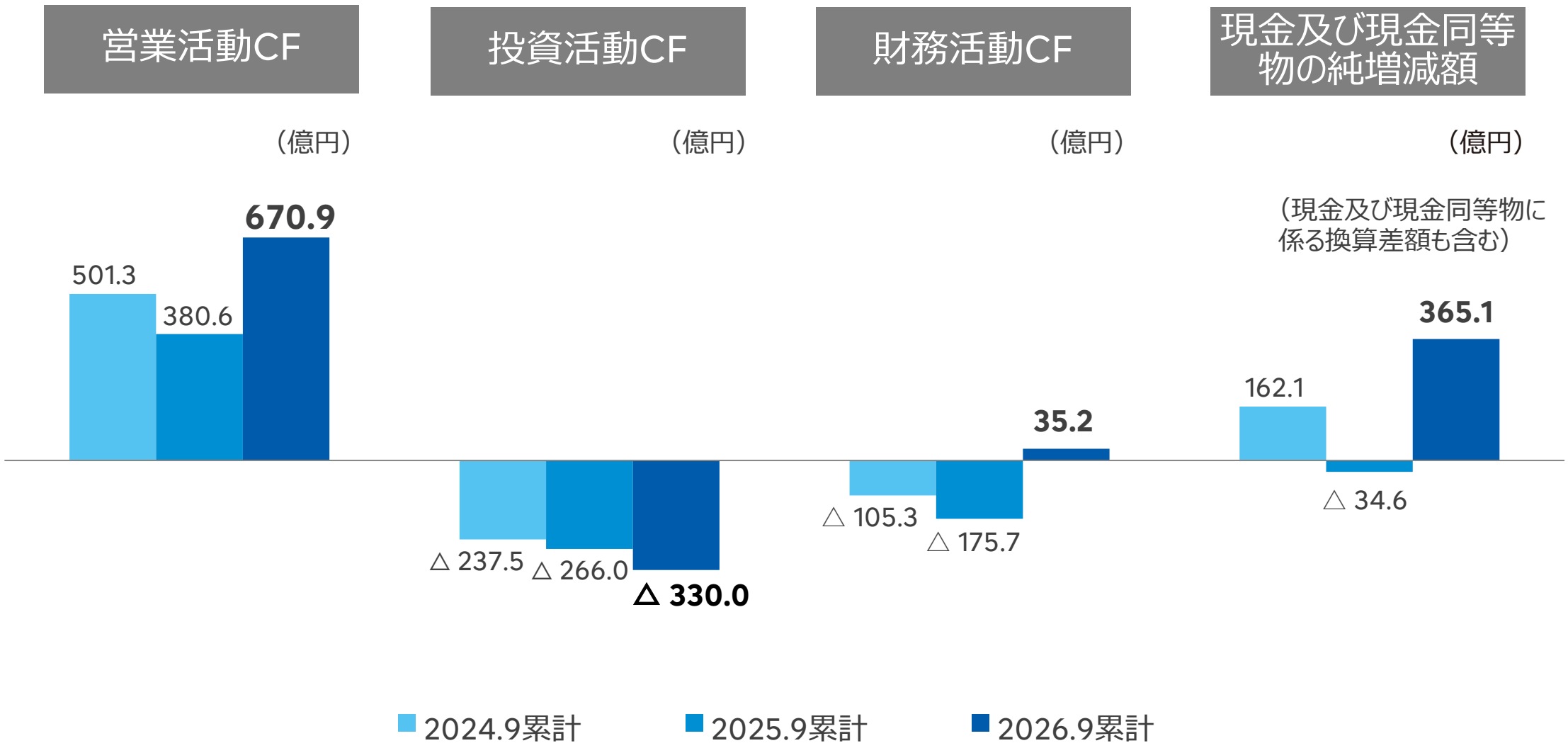
負債　+518.3

資本　△239.7

（億円）



キャッシュフローの推移



3. 中期経営計画において重点的に取り組むテーマ

事業ポートフォリオ見直しの目的

重点的に取り組む4つのテーマを支える土台として、事業ポートフォリオの見直しを実行

ダイアグノスティクス事業の競争力強化

- ✓ AI搭載次世代モデル
- ✓ 血液凝固分野の成長加速
- ✓ 新興国で2桁成長

ダイアグノスティクス事業の強みを活かした医療DXとデータ活用の推進

- ✓ 診療価値の拡張
- ✓ 社内デジタル化効果100億円以上*

*3年間累計/間接効果含む

バリューチェーン改革による収益性向上

- ✓ 粗利率1.9pt改善

財務・資本戦略の再設計

- ✓ 資本効率の向上
- ✓ 株主還元の拡充

単なる縮小均衡や低収益事業・分野の整理ではなく、
コア領域の収益性と次の成長に向けた資本配分改革を実施

中期経営計画を達成し、中長期での企業価値向上を実現する

評価軸と評価結果

定量・定性の評価軸で全事業・投資案件を評価し、4つの分類で方向性を確定

評価軸（分野・投資案件に共通）

定量	**収益性** 粗利益率、キャッシュ創出力、改善余地	**資本効率** ROIC＞WACC+α IRR＞ハードルレート ＊当社の資本コストを起点に設定	**市場成長性** 中長期の市場拡大余地 地域別成長性
定性	**戦略的重要性** 中期経営計画との整合性 ダイアグノスティクス再強化への貢献	**競争優位性** 技術優位性、顧客基盤、サービス・サポート体制、差別化要素	**ベストオーナー** 当社が保有・運営することが企業価値最大化に繋がるか検証

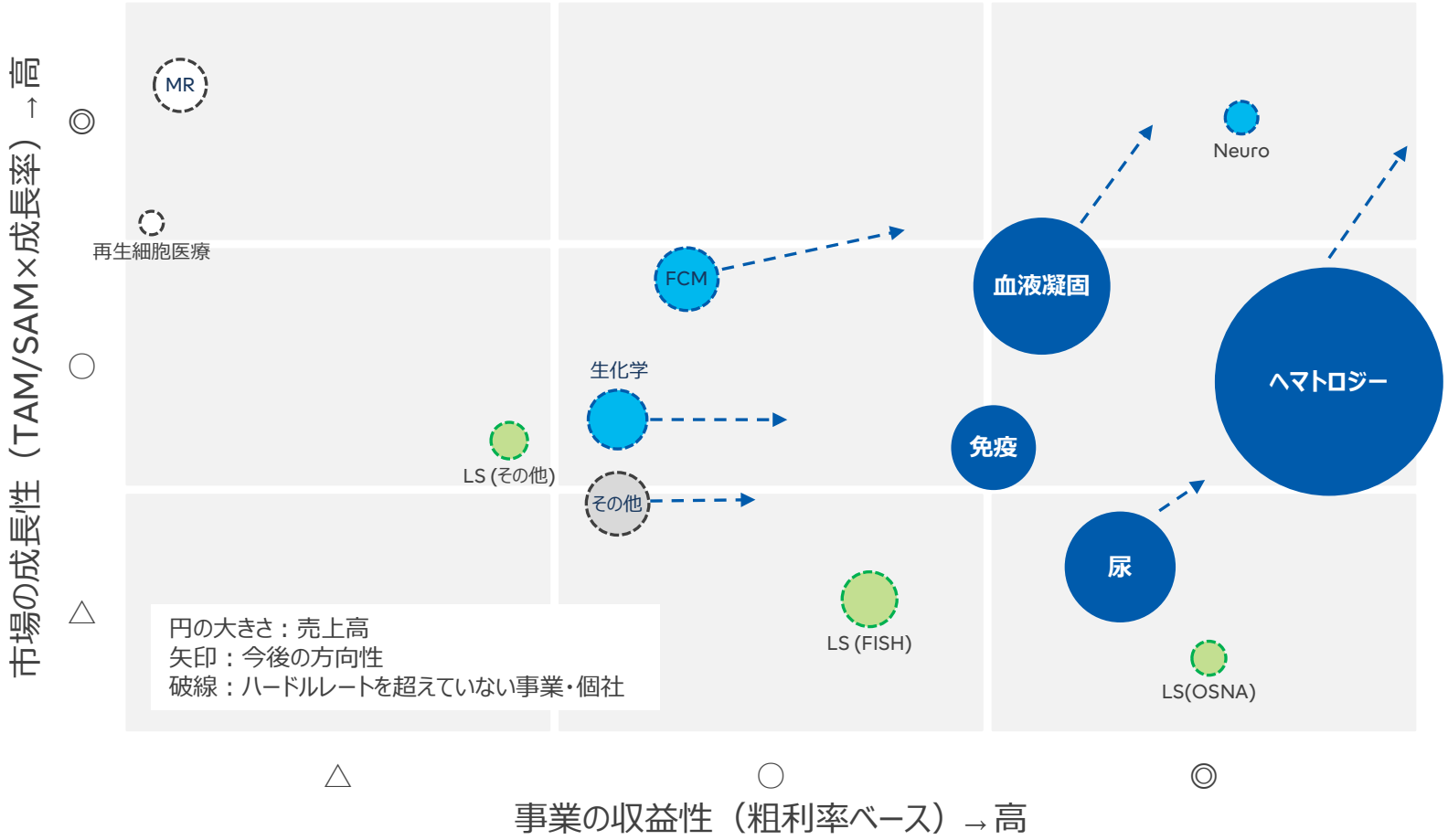
評価結果（4つの分類）

戦略を磨き強化 資源を優先配分	**育成** 資源配分を継続	**事業の在り方を再定義** 戦略・投資範囲を見直し	**戦略的見直し** 保有継続を前提としない
ヘマトロジー・血液凝固・尿・免疫分野	FCM／生化学分野／Neurology	ライフサイエンス	その他 事業関連子会社（R&D関連含む）

コア領域

事業ポートフォリオマトリクス

事業の収益性に加え、AI・デジタルを活用しコア領域の成長性も高めていく



評価結果の分類

戦略を磨き強化

ヘマトロジー・血液凝固・尿・免疫分野

育成

FCM・生化学分野・Neurology

事業の在り方を再定義

ライフサイエンス

戦略的見直し

その他 事業関連子会社（R&D関連含む）

継続検討

メディカルロボット事業／再生細胞医療

ハードルレート未達の事業・個社は、達成に向けた進捗を継続的に評価し、投資継続・見直しを判断

具体的な方向性（コア領域）

投資先と実行課題を事業ごとにフォーカス

	対象	評価・認識	今後の方向性
強化	ヘマトロジー	• グローバルで高いシェアと機器設置基盤を有する主力事業 • 競争力の強化と新興国でのシェア拡大が重要	✓ 競争優位を再強化し、次世代製品開発・AI・データ活用と新興国展開により、市場成長を上回る成長を目指す
強化	血液凝固	• 大きな市場に対し、欧米を中心にシェア拡大余地が大きい • 直接販売開始により、顧客接点と提案力を高める段階	✓ ヘマトロジー顧客基盤を活用し、自社ブランド・一部自社試薬・供給力・統合提案で欧米を中心にシェアを拡大
強化	尿	• 尿沈渣検査では高い競争力を持つ一方、尿定性検査を含む市場全体では提供価値・事業規模の拡張余地あり	✓ 尿沈渣検査の強みを維持し、新製品開発を通じて、尿定性検査や検査室全体のワークフロー提案へ価値提供を拡張
強化	免疫	• 市場は大きいが、総合免疫市場でのシェアは限定的 • 高感度技術と独自項目にフォーカス	✓ 全方位ではなく、独自項目、疾患、地域を選択し、試薬項目と装置価値を高める
育成	FCM	• ヘマトロジー分野との親和性が高く、造血器腫瘍領域で一貫提案が可能	✓ ヘマトロジー顧客基盤を活用して臨床実装を拡大。ハードルレート達成に向けた進捗を継続評価
育成	Neurology	• 市場形成・臨床実装段階	✓ HISCL™シリーズ・複数バイオマーカーで先行し、対象疾患・地域を選択して立ち上げ
育成	生化学	• 顧客基盤拡張の機会がある一方、早期の収益性改善が課題	✓ 試薬製品のパートナーを早期に見出し、当社のグローバルな販売・サービス網と組み合わせ、新興国を中心に事業価値を中長期的に高めていく

具体的な方向性（重点見直し領域）

	対象	評価・認識	今後の方向性
再定義	**ライフサイエンス**	• 過去の投資に比して十分な収益化を実現できておらず、商品プラットフォームの競争力を見直す必要がある	**✓個別事業として収益化を追求するのではなく、コア領域での臨床価値創出に寄与する技術資産として活かす** **✓従来の投資方針から大きく転換 研究開発テーマ、商品ポートフォリオ含めて選択・集中** **✓事業関連子会社の新たなパートナー探しを開始**
戦略的見直し	**その他 事業関連子会社 (R&D関連含む)**	• 一部個社において技術優位性はあるが、スケール化・収益化には追加投資が必要 • 将来戦略での不可欠性とベストオーナーの観点から見直し	**✓企業価値を最大化できる方向性を模索** **✓顧客影響を最小化する形で、新たなパートナー探しを開始** **✓継続保有を前提としない**
継続検討	**メディカルロボット事業**	• 成長市場である一方、市場展開スピード、当社収益性に課題	**✓今後の海外展開・収益化に向けて、関係3社間での責任範囲・役割分担の協議を開始**
継続検討	**再生細胞医療**	• 当社の強み、コア領域とのシナジーにより競争優位性を発揮可能な領域を見直し	✓継続検討中

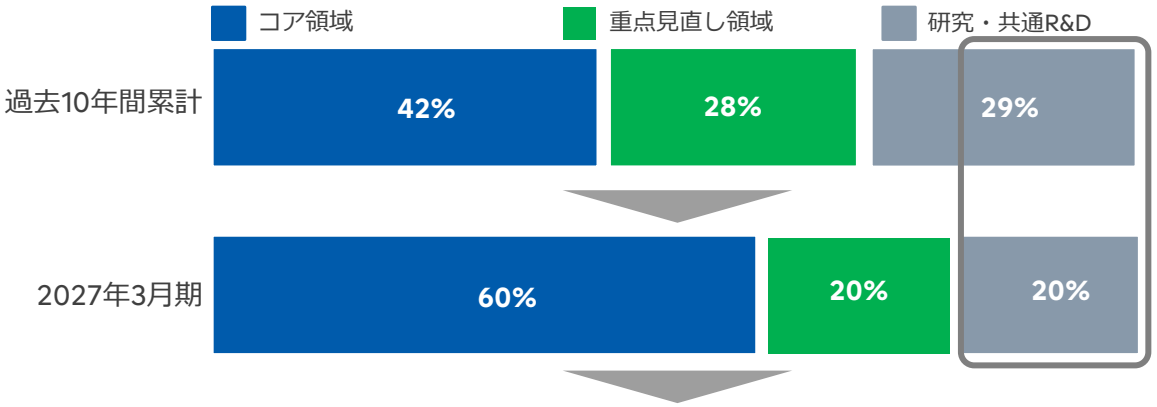
進捗については改めて報告予定

個別案件の施策実行時期・条件・財務影響は、確定した段階で適宜開示

事業・R&Dにおけるキャピタルアロケーション

コア領域と成長領域へ資源を再配分、共通費用も見直し、資本効率改善へ

■事業・R&D キャピタルアロケーションの構成イメージの変化



コア領域の割合を2029年3月期までに70%超へ

強化　コア領域における新製品開発、医療DXなど当社の技術・顧客基盤・データを活かせるテーマへ重点配分

抑制再配分　低優先度・長期未収益テーマを縮小し、資源をコア領域へ移管

共通費用見直しの具体的施策

- **R&Dテーマの見直し・機能の棚卸し**
  - ✓ 共通基盤研究、管理・支援機能を見直し、コア領域への貢献が明確な機能へ集中 （例：臨床戦略・学術機能の強化など）
- **R&D拠点の再構築**
  - ✓ 各拠点に点在するR&D機能の役割・責任範囲を見直し、再配置
  - ✓ 一部子会社において人員適正化を予定

期待効果

固定費の適正化＋テーマの取捨選択

重点テーマへの再投資

コア成長・粗利改善

ROIC・FCF改善

事業ポートフォリオ見直しに伴う財務影響と開示方針

一時費用45億円は下期計上へ期ずれ、個別案件は確定した段階で適宜開示

下期計上へ期ずれ

△45億円

見直しに伴う一時費用

- 8月修正時に上期予想に織り込むも、施策実行時期を変更
- 費用の主な内訳は、R&D拠点の見直し・人員適正化など
- 通期業績予想に反映済み

確定後開示

個別案件

事業子会社売却など

- 実行時期・条件・財務影響は確定した段階で適宜開示

見直し効果

ROIC・FCF

期待効果

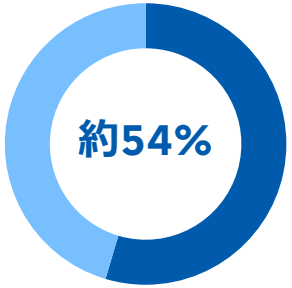
- コア領域の投資比率：
  2029年3月期70%超へ
  （共通費用含む）

- 固定費の適正化＋テーマの取捨選択
  ⇒ 重点テーマへの再投資
  ⇒ コア成長・粗利改善
  ⇒ ROIC・FCF改善　により
  中計目標達成を目指す

参考）コア領域における成長性

強化

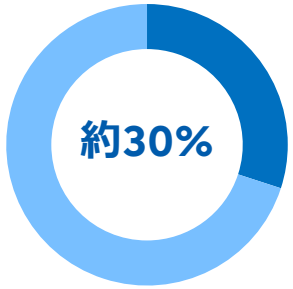
ヘマトロジー分野



TAM：約43億ドル
SAM≒TAM

新興国市場・次世代機器・試薬により成長

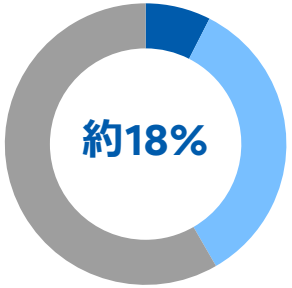
血液凝固分野



TAM：約32億ドル
SAM≒TAM

既存顧客シェアおよび自社ブランドを拡大

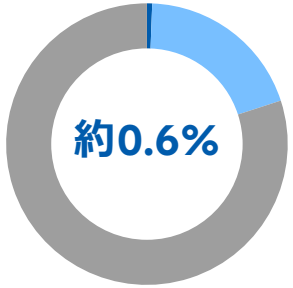
尿分野



TAM：約12億ドル*
SAM：約5億ドル**

尿沈渣検査の高付加価値化・ラボ一体提案

免疫分野

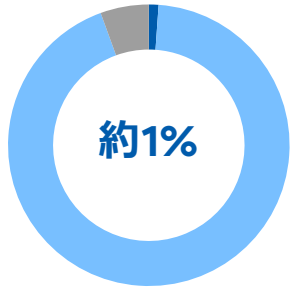


TAM：約27億ドル
SAM：約10億ドル

対象疾患・項目・地域を選択

育成

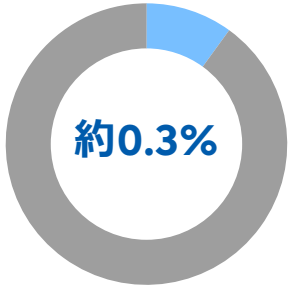
FCM分野



TAM：約18億ドル
SAM：約17億ドル

ヘマトロジー分野の顧客基盤を活用

生化学分野



TAM：約90億ドル
SAM：約9億ドル

承継顧客基盤を活用した検査室全体への提案拡大

*尿定性検査・尿沈渣検査の合計
**尿沈渣検査の対象市場

TAM：市場全体、SAM：対象市場　SAMにおける当社シェア　SAM内の余地　SAM外の市場

医療DXの取り組み

社会課題					
	先進国	高齢化・医療コスト増 労働人口・医療人材減少	新興国	人口増加・医療格差 医療従事者不足	共通	医療アウトカム重視 予防・個別化医療への移行

予防 ← **健康診断・基礎検査** → 精密検査／治療・手術 → 効果判断／予後

3つの戦略の柱			
Intelligence triage	**予兆検知・トリアージシステム**	検査データを起点とした診断・意思決定支援 （発熱・貧血・造血器腫瘍など）	
Operational Excellence	**検査室効率化サービス**	検査室の品質管理プロセスをデジタルで高度化	
Population Health management	**感染症サーベイランスシステム**	日々の検査データから感染症の流行を予測し 政府・自治体に提供	

具体的な取り組み事例

Data

様々な医療機関との共同研究等を通じて、データの取得を進める

×

AI

Hologen社とのJV設立

当社のヘマトロジーデータとHologen社のAI技術を融合

ダイアグノスティクス事業の目指す姿

大規模データから
疾患・病態との関連を広く探索

データドリブン



スクリーニング検査
×AI/デジタル

疾患軸で臨床課題・病態仮説
からの深掘り

テーマドリブン

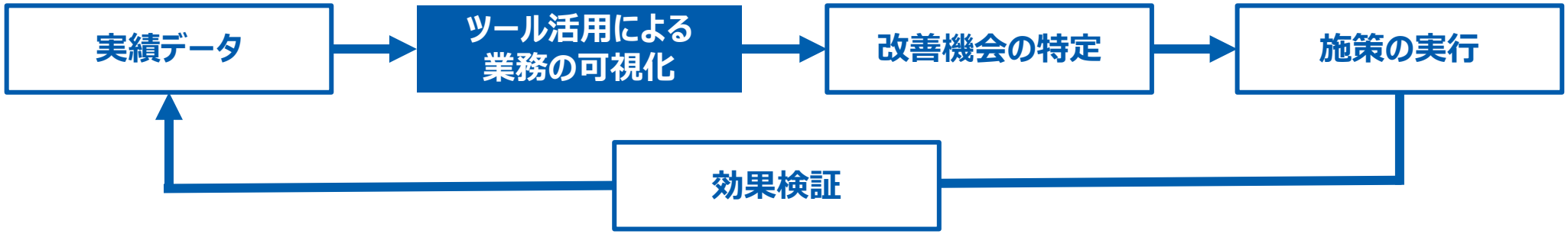


スクリーニング検査の価値を拡大させ、社会課題の解決を目指す

収益性改善に向けた取り組み

デジタル活用によるリードタイム短縮と在庫適正化を通じて、資本効率・収益性の向上を実現

- ✓ 実績データを基に、デジタルツールを活用して業務フローを可視化、改善機会を特定
- ✓ 施策実行、効果検証までを継続的に実施



活用事例：EMEA統括会社から各個社への一部製品における受注・出荷業務の改善

可視化によって明らかになった課題	改善内容	成果
長期間固定された リードタイム	最適なリードタイムへ 変更	リードタイム15日短縮 在庫10%減

4.　2027年3月期 業績予想

2027年3月期 通期業績予想修正

上期業績の上振れに加え、事業ポートフォリオ見直しに伴う一時的な収益・費用を見込みながらも、コア領域の堅調な成長を踏まえ、通期業績予想を上方修正

（億円）	2027年3月期 上期 (4月-9月)			2027年3月期 下期 (10月-3月)		2027年3月期 通期 (4月-3月)			
	実績	構成比	対8月修正 達成率	修正後	構成比	修正後	構成比	対前年	対8月修正
売上高	2,728.2	100%	103.0%	**2,772**	100.0%	**5,500**	100.0%	110.0%	**+50**
売上原価	1,323.8	48.5%	-	**1,356**	48.9%	**2,680**	48.7%	109.7%	**△10**
販売費及び一般管理費	854.7	31.3%	-	**900**	32.5%	**1,755**	31.9%	106.8%	**△55**
研究開発費	142.2	5.2%	-	**158**	5.7%	**300**	5.5%	102.9%	**±0**
その他営業収益	12.9	0.5%	-	**35**	1.3%	**47**	0.9%	-	**+35**
その他営業損失	△85.9	△3.1%	-	**△42**	△1.5%	**△127**	△2.3%	-	**△65**
営業利益	334.2	12.3%	133.7%	**351**	12.7%	**685**	12.5%	132.2%	**+85**
親会社の所有者に帰属する当期利益	179.3	6.6%	119.5%	**221**	8.0%	**400**	7.3%	112.8%	**+30**

緑字：2026年8月からの変更箇所

主な経営指標	通期予想
ROE	**8.0%**
ROIC	**8.5%**
CCC	**200日**
営業CF	**990億円**
フリーCF	**380億円**

投資計画（変更なし）：設備投資480億円、減価償却費：470億円

● **想定為替レート**

	通期 (2026年8月修正)	通期 (2026年11月修正)	下期 (2026年11月修正)
1 USD	156.1円	157.1円	155.0円
1 EUR	181.3円	179.6円	175.0円
1 CNY	22.4円	23.3円	23.0円

● **為替感応度の概算値（下期）**

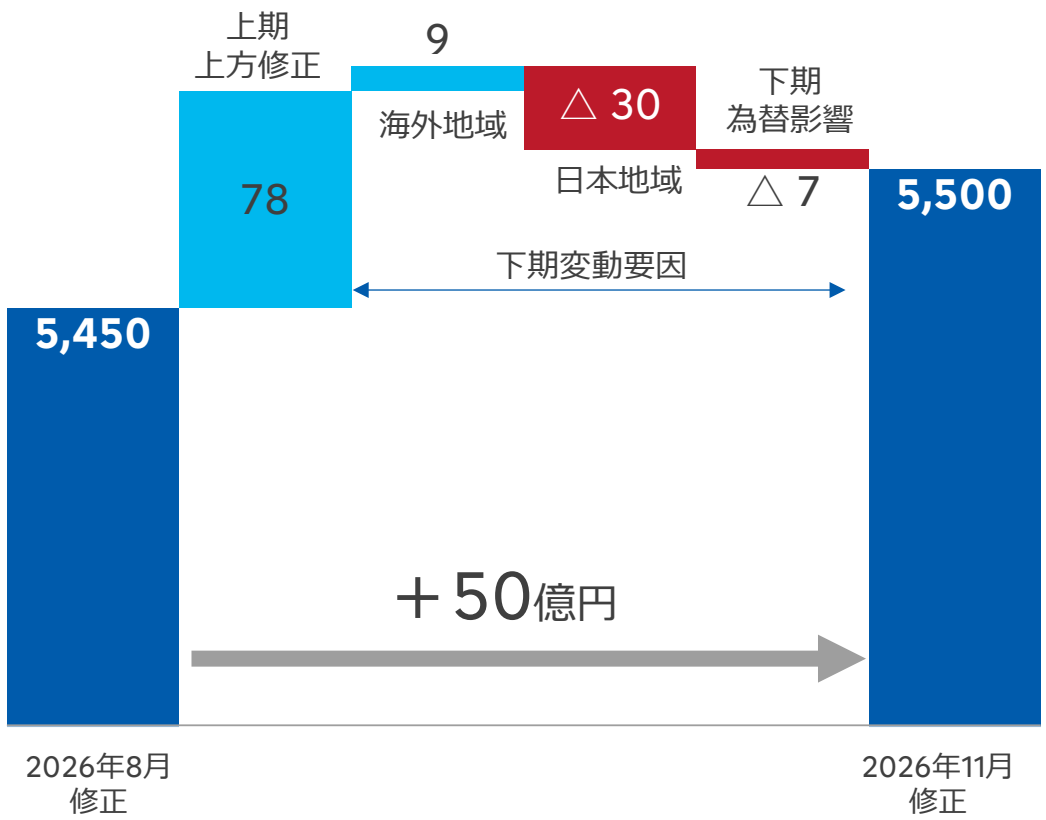
	売上	営業利益
USD	4.2億円	1.2億円
EUR	3.1億円	0.5億円
CNY*	1.9億円	1.4億円

*0.1円変動時

2027年3月期 通期業績予想修正　変動要因

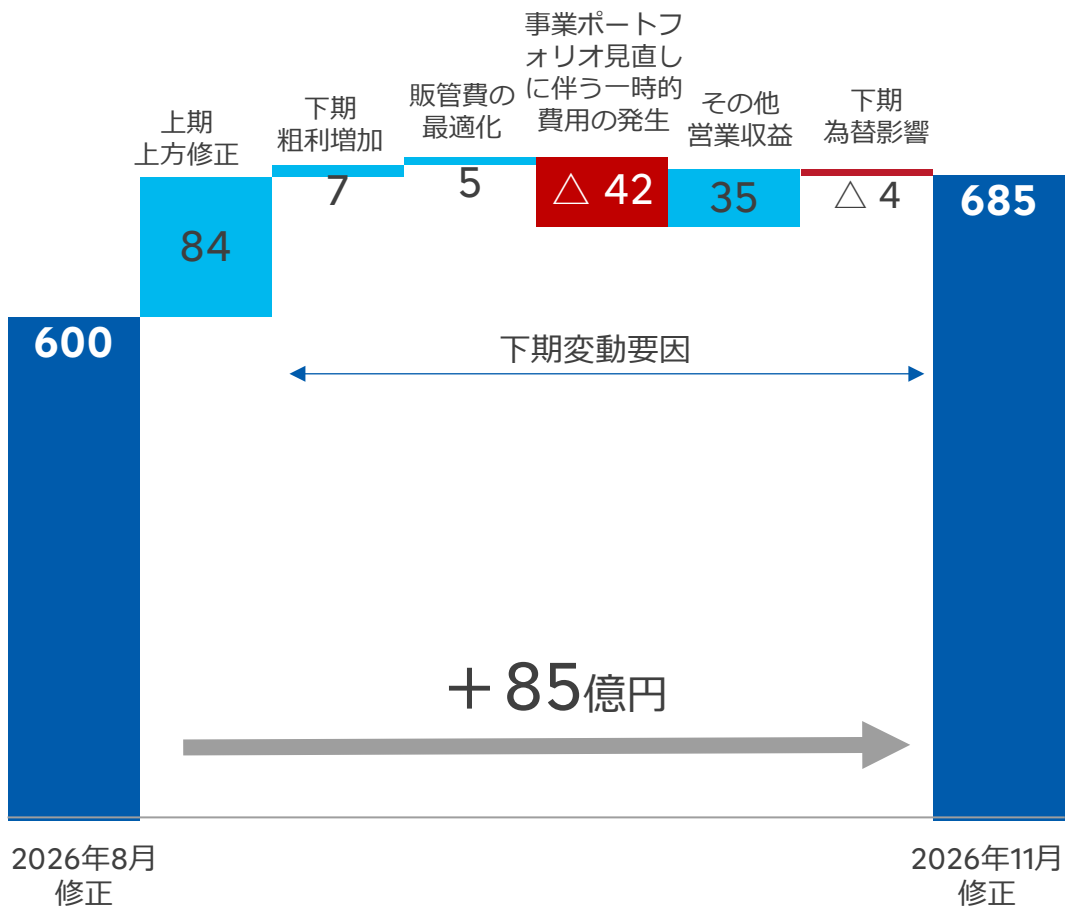
売上高

（億円）



営業利益

（億円）



2027年3月期 業績予想修正（事業・分野別・地域別売上高）

■事業・分野別売上高

(億円)	2027年3月期	構成比	前年同期比
ヘマトロジー分野	3,300	60.0%	110.2%
FCM分野	75	1.4%	159.9%
尿分野	500	9.1%	113.5%
血液凝固分野	730	13.3%	100.8%
免疫分野	235	4.3%	105.3%
生化学分野	130	2.4%	445.5%
ライフサイエンス	240	4.4%	96.2%
その他	250	4.5%	96.4%
ダイアグノスティクス事業	5,460	99.3%	109.9%
メディカルロボット事業	40	0.7%	121.0%
合計	5,500	100%	110.0%

■地域別売上高

緑字：2026年8月からの変更箇所

(億円)	2027年3月期	構成比	前年同期比	
			円ベース	現地通貨ベース
米州	1,605	29.2%	115.3%	110.7%
EMEA	1,750	31.8%	110.7%	108.0%
中国	810	14.7%	90.5%	82.8%
AP	625	11.4%	114.4%	-
日本	710	12.9%	121.2%	-

予想配当額

- 配当額は前年から2円増配（期初予想から変更なし）

	中間	期末	年間	配当性向
2026年3月期	19円	19円	38円	67.3%
2027年3月期（予想）	20円	20円	40円	61.0%

（補足資料）

第2四半期実績（対第1四半期）

各地域の増収効果、販管費最適化などにより、収益性が1Qから大幅改善

（億円）	2027年3月期1Q (4月-6月) 実績	構成比	**2027年3月期2Q (7月-9月) 実績**	**構成比**
売上高	1,306.7	100%	**1,421.4**	100.0%
売上原価	643.6	49.3%	**680.2**	47.9%
販売費及び一般管理費	426.1	32.6%	**428.6**	30.2%
研究開発費	72.1	5.5%	**70.1**	4.9%
その他の営業損益	△16.6	△1.3%	**△56.3**	△4.0%
営業利益	148.2	11.3%	**186.0**	13.1%
親会社の所有者に帰属する中間利益	86.9	6.7%	**92.4**	6.5%

重点テーマの進捗

血液凝固分野の展開加速

EMEA

上期実績(現地通貨ベース) 前年同期比：＋26%

- ヘマトロジー分野の顧客基盤を活かした活動が奏功し、機器・試薬ともに着実に伸長
- 特殊検査項目（HIT IgG試薬、ADAMTS13試薬など）の薬事認可を取得し、さらなる競争力と試薬ビジネスの強化を推進

米州

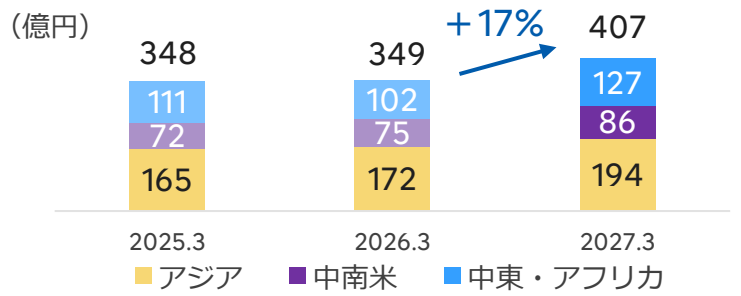
上期実績(現地通貨ベース) 前年同期比：＋39%

- 他社攻略による米州初のCN™シリーズの大型案件（公的病院）を獲得し、さらなる波及効果が期待される

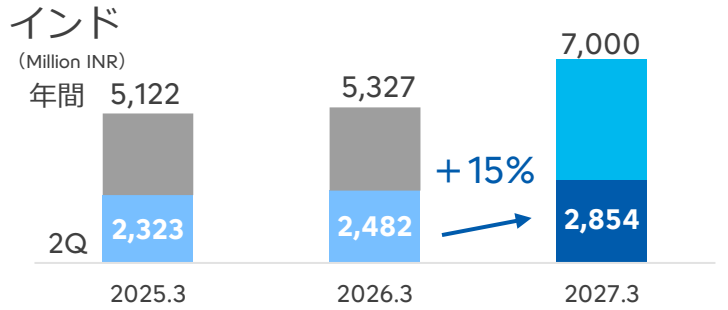
新興国での事業拡大

■売上高推移（上期）

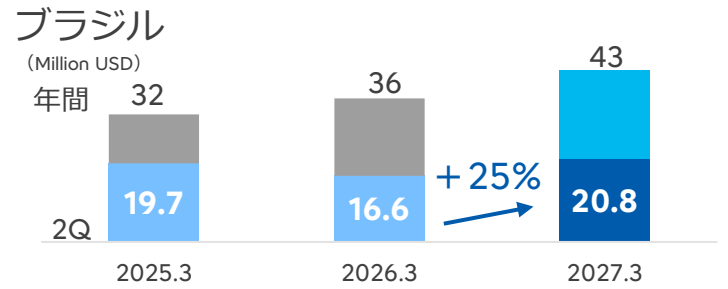
新興国（アジア・中南米・中東・アフリカ）



各地域での取り組みが奏功し、順調に成長



テンダー案件を着実に獲得するなど大幅成長



ヘマトロジー・尿分野が成長を牽引

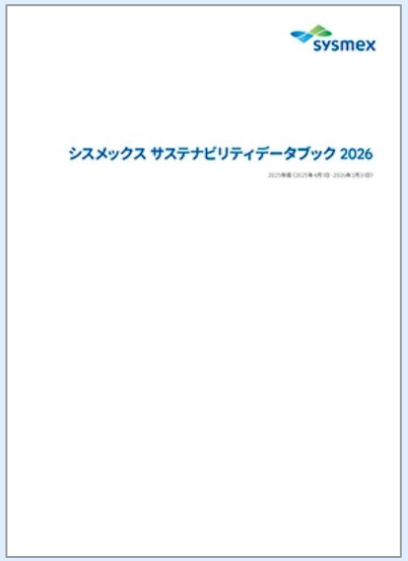
「シスメックスレポート2026」
「シスメックスサステナビリティデータブック2026」を発行

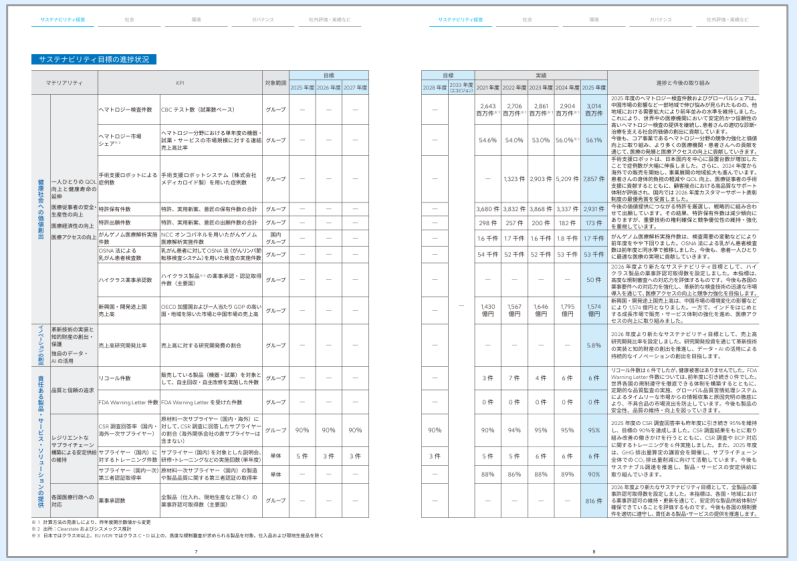
統合報告書「シスメックスレポート2026」
https://www.sysmex.co.jp/ir/library/annual-reports/index.html





年度報告書「シスメックス サステナビリティデータブック2026」
https://www.sysmex.co.jp/csr/report/index.html





Topics
「シスメックスレポート 2025」が、国際的なレポート評価アワード『2025 Vision Awards』を受賞

2025 Vision Awards

Annual Report Competition

- Top 100 Worldwide Rank : 89位
- PLATINUM WINNER WORLDWIDE



Together for a better
healthcare journey